

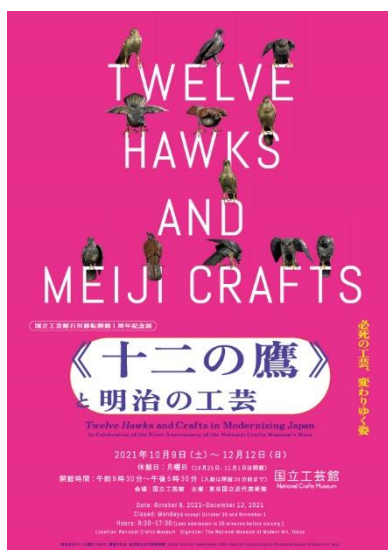
国立工芸館石川移転開館1周年記念展 《十二の鷹》と明治の工芸

Twelve Hawks and Crafts in Modernizing Japan
In Celebration of the First Anniversary of the National Crafts Museum's Move

2021年10月9日 [土] – 12月12日 [日]

重要文化財《十二の鷹》 発表当時の姿で12羽揃い踏み！

北陸地域で初お披露目！



図版No.1 展覧会チラシ



図版No.2 鈴木長吉《十二の鷹》(12番)
1893年 重要文化財

明治ほど、その工芸から「熱量」が伝わってくる時代はありません。器の表面から飛び出すほどの彫刻的な細工が施された陶器や金属器、まるで生きているかのようにリアルな表情を見せる動物の置物など、私たちの視線をとらえて放しません。

そこには江戸から明治へと社会構造が大きく変化した時代にあって、どうにか活路を見出そうとする工芸家たちの必死さがあらわれているようです。

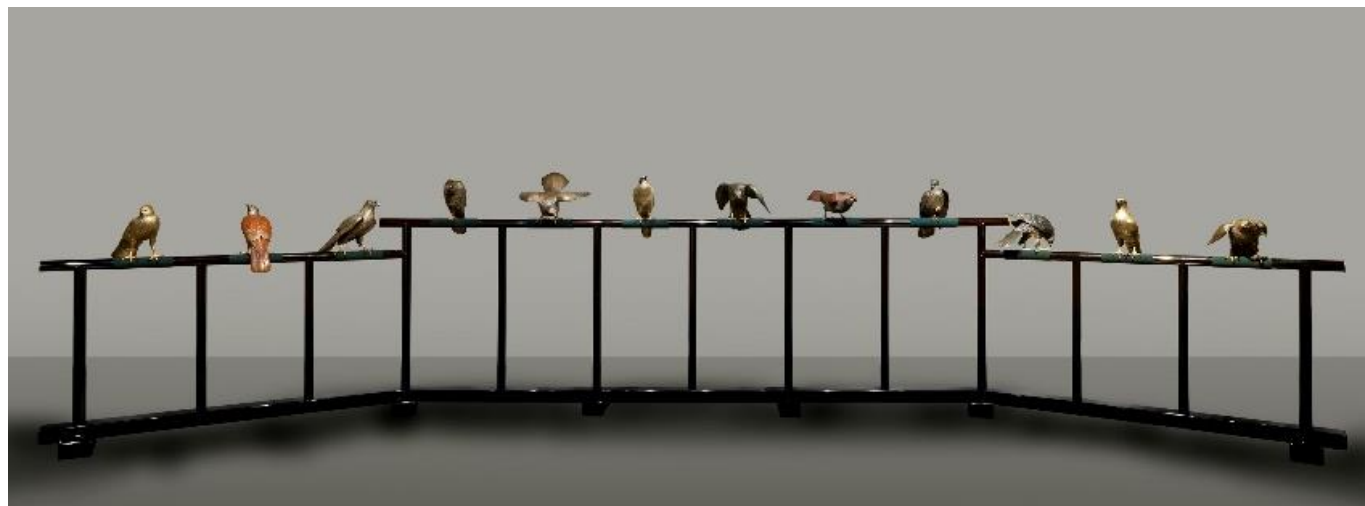
ひるがえって現在、急速に進むデジタル化のなかで、私たちの生活も大きな変化の只中にあります。インターネットによる情報化や新たなデジタル機器は、モノづくりの領野にも確実に影響を及ぼしています。

社会構造の変化に、工芸家たちはどのように立ち向かってきたのでしょうか。本展では、明治から現代までの工芸作品を通して、変化し続ける工芸家たちの姿を見つめます。

展覧会のポイント

- ・ 鈴木長吉《十二の鷹》を始めとした明治以降の工芸作品約100点を展示
- ・ 社会の変化に立ち向かう工芸家たちのヒューマン・ストーリー
- ・ 工芸館の歴史を振り返る特設コーナー

詳細は次ページへ



図版No.3 鈴木長吉《十二の鷹》1893年 重要文化財 (飾り布復元前)

展覧会のポイント詳細

◆鈴木長吉《十二の鷹》を始めとした明治以降の工芸作品約100点を展示

明治の名工で帝室技芸員に任命された鈴木長吉（1848 - 1919）が制作の指揮をとり完成させた大作《十二の鷹》。当時の最高の技に日本の伝統を加味した最新の「美術」として世界に提示しようと、明治26（1893）年にシカゴ万博で発表されました。近年復元された飾り布とともに、発表当時の姿で展示されるのは北陸地域では初めての機会です。

◇3Dでの《十二の鷹》鑑賞体験のご提供

《十二の鷹》全12羽を3Dデータ化し、あらゆる角度でご堪能いただけるサービスを提供予定。普段の展示では見ることができない角度で、ご自身のスマホやタブレット端末を使ってご鑑賞いただくことができます。じっくりと明治の技をご体感ください。

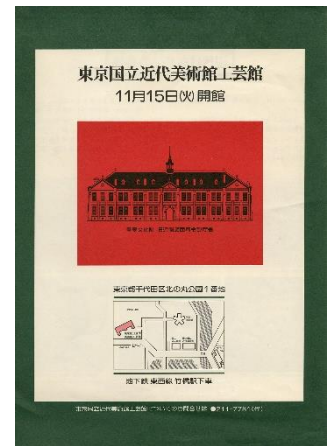
◆社会の変化に立ち向かう

工芸家たちのヒューマン・ストーリー

社会全体が大きな変化の波に揺れ動いた明治時代、工芸家たちはどのように時代に立ち向かったのでしょうか？コロナ禍で加速する社会のデジタル化、新しい生活様式や働き方への対応など、変化に翻弄される今だからこそ共感できる、明治の超絶技巧にひそむ工芸家のヒューマン・ストーリーを、作品を通してご覧ください！

◆工芸館の歴史を振り返る特設コーナー

当館が東京国立近代美術館工芸館として誕生したのは昭和52（1977）年。皇居に程近い北の丸公園内にある明治生まれの建物、旧近衛師団司令部庁舎からその活動をスタートさせました。それから43年後の2020年、拠点を石川県金沢市に移し、この秋には移転開館1周年を迎えます。本展示では、様々な資料を交えて開館から移転までの工芸館の歴史をご紹介します。



図版No.4
東京国立近代美術館工芸館開館告知チラシ
1977年

章立て

必死の工芸、変わりゆく姿

第1章 ◇ 明治の工芸 変わらなければ生き残れない！

明治の改元以降、廃藩置県、廃刀令、内閣制度の確立など、近代国家の礎となる政策が矢継ぎ早に打ち出されていきます。武士階級という有力な後ろ盾を失った工芸家たちも、生き残りの方法を模索します。ある者は住む場所を変え、またある者は、社会的な立場を変え…変わらなければ生き残れない、そんな激動の時代を生き抜いた工芸家たちを紹介します。



図版No.5
駒井音次郎 《鉄地金銀象嵌人物図大飾皿》
1876-85年頃 （登録美術品）



図版No.6
七代錦光山宗兵衛
《上絵金彩花鳥図蓋付飾壺》
1884-97年頃



図版No.7
初代宮川香山 《鳩桜花図高浮雕花瓶》1871-82年頃

第2章 ◇ 鈴木長吉と《十二の鷹》 新旧の技に挑む！

《十二の鷹》制作の指揮を執った鈴木長吉も、明治という時代にあわせ、自身の活動を大きく変えた工芸家の一人です。海外の美術館やコレクターの所蔵となっている彼の作品はいずれも高さ2メートル近く、あるいはそれ以上の大作です。《十二の鷹》は、日本古来の技法である色金の技術を駆使し、我が国の高い文化的水準を世界に示そうとした作品ですが、近年の研究で、当時最新の技術も使ったのではないかと指摘もなされています。新旧の技を駆使した明治の工芸家の気概をご覧ください。



←図版No.8
鈴木長吉《十二の鷹》（1番）1893年
重要文化財



↑図版No.10
鈴木長吉《十二の鷹》（8番）1893年
重要文化財



図版No.9→
鈴木長吉《十二の鷹》（3番）1893年
重要文化財

第3章 ◇ 「熱量」のゆくえ～工芸の変わりゆく姿

明治から大正・昭和へと、世相の移り変わりとともに、工芸家たちの制作にも変化が現れます。前へ表へと向かっていったその熱量は、表立ってそれとわかる装飾や大きさに代わって、内面に込めた作家の表現へと、その「熱」の在り処も変わっていきます。一見すると、落ち着き払って見える作品の内奥に見え隠れする工芸家たちの熱量を会場で感じてください。



図版No.11
平田郷陽《洛北の秋》1937年



図版No.12
岩田藤七《彩色壺》1935年



図版No.13
二十代堆朱楊成《彫漆六華式平卓》1915年

そのほか、現代の工芸家の作品も取り上げ、
新しいテクノロジーを取り入れつつ時代に即応する姿を紹介予定！

◆特別開館◆ 10月25日(月)、11月1日(月)は開館！

10月25日は移転開館記念日、11月1日は教育・文化週間に伴い特別に開館いたします。

開催概要

展覧会名(日)	国立工芸館石川移転開館1周年記念展 《十二の鷹》と明治の工芸
展覧会名(英)	Twelve Hawks and Crafts in Modernizing Japan In Celebration of the First Anniversary of the National Crafts Museum's Move
会期	2021年10月9日 [土] - 12月12日 [日]
会場	国立工芸館 〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2
主催	東京国立近代美術館
開館時間	午前9時30分～午後5時30分 ※入館は閉館の30分前まで
休館日	月曜日(10/25、11/1は開館)
アクセス	<p>JR金沢駅兼六園口(東口)より</p> <p>バスにて</p> <p>【北鉄バス】</p> <p>3番乗り場：18系統に乗車、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分</p> <p>7番乗り場：どの系統でも乗車可、 「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分</p> <p>6番乗り場：乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩7分</p> <p>車にて</p> <p>北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。 近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります。</p>
観覧料	<p>一般 500円(400円)</p> <p>大学生 300円(150円)</p> <p>※高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方と付添者1名までは無料</p> <p>※()内は割引料金、いずれも消費税込</p> <p>割引対象：石川県立美術館・金沢21世紀美術館・石川県立歴史博物館・ 石川県立伝統産業工芸館(いしかわ生活工芸ミュージアム)・ 金沢市立中村記念美術館・金沢ふるさと偉人館の主催展覧会入場券半券、 ならびにSAMURAIパスポート(一般のみ)を窓口で提示した方。</p>
イベント	※決まり次第、ホームページにてお知らせいたします。
本展の特記事項	<p>オンラインによる事前予約(日時指定・定員制)を導入します。</p> <p>また若干数、当日券もご用意しています。</p> <p>詳細は公式WEB(https://www.momat.go.jp/cg/)でご確認ください。</p>

報道関係の方の
お問合せ先

国立工芸館

展覧会担当/北村 広報担当/藤田・小島

Tel: 076-221-1955 (広報直通) E-mail: kogei-pr@momat.go.jp

掲載用お問合せ先

Tel: 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

公式HP

<https://www.momat.go.jp/cg/>

広報用図版 請求票

FAX:076-221-1969 広報担当 行

発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	作品
	1	展覧会チラシ
	2	鈴木長吉《十二の鷹》(12番)1893年 重要文化財
	3	鈴木長吉《十二の鷹》1893年 重要文化財 (飾り布復元前)
	4	東京国立近代美術館工芸館開館告知チラシ 1977年
	5	駒井音次郎《鉄地金銀象嵌人物図大飾皿》1876-85年頃 登録美術品
	6	七代錦光山宗兵衛《上絵金彩花鳥図蓋付飾壺》1884-97年頃
	7	初代宮川香山《鳩桜花図高浮彫花瓶》1871-82年頃
	8	鈴木長吉《十二の鷹》(1番)1893年 重要文化財
	9	鈴木長吉《十二の鷹》(3番)1893年 重要文化財
	10	鈴木長吉《十二の鷹》(8番)1893年 重要文化財
	11	平田郷陽《洛北の秋》1937年
	12	岩田藤七《彩色壺》1935年
	13	二十代堆朱楊成《彫漆六華式平卓》1915年

*上記作品は5以外 東京国立近代美術館蔵

ご希望の図版の左枠内にを入れてFAXまたはメールでお送りください。

■クレジット

2, 3, 8-10は「撮影: エス・アンド・ティ フォト」、6, 7は「撮影: アローアートワークス©2005」、11は「撮影: アローアートワークス©2006」、12は「撮影: 斎城卓」、13は「撮影: 尾見重治©2012」と表記してください。

■プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会広報のみにご使用ください。
2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。
3. 画像は全図で使用してください。作品部分のトリミング、作品に文字を重ねることはできません。(背景は可)
4. 画像を掲載される際には、貸出時に添付するキャプション・クレジットをご記載ください。
5. 掲載紙(誌)は、1部広報担当宛にご寄贈ください。web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。

※画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。

※掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

御芳名

貴社名

出版物・放送番組・webサイト名など(発行日等):

URL <https://www.>

TEL

FAX

E-MAIL

* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意しております。

プレゼント用招待券を 希望する(5組 10枚) / 希望しない

招待券送付先: 〒

報道関係のお問合せ先

国立工芸館 広報担当/藤田・小島

TEL:076-221-1955(広報直通) FAX:076-221-1969

E-mail:kogei-pr@momat.go.jp 公式HP:<https://www.momat.go.jp/cg/>